

病院長のご挨拶

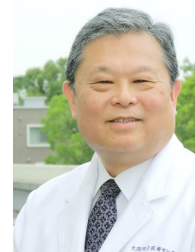
パリオリンピックも終わりましたが、まだまだ酷暑が続いています。この冊子がお手元に届く時でもまだ残暑まっただ中だと思います。今年の夏は今まで静かになっていた感染症が再燃し、小児医療機関は大変であり、先生方の施設でも、患者さん、職員の感染対応にご苦労されたことと思います。

《新病院整備事業について》

すでに、お聞き及びきかもしれませんが、現在、当センターは現地建替計画を遂行中です。本稿では現時点までの進捗状況をお知らせしたいと思います。

当センターは1981年に開設し、大阪府域の周産期・小児医療の中心的役割を担ってまいりましたが、今年で43年目を迎えたこともあり建物の老朽化が進んでおります。引き続き、南大阪地域の周産期・小児医療の基幹病院として高度でかつ幅広い医療を提供するとともに、周産期・小児分野の希少・難治性疾患のゲノム解析・病態解明等の取り組みや大阪府の母子保健で中心的な役割を果たすため、現地建替え整備を進めております。

昨年度(2023年度)から今年度(2024年度)にかけ、建物のイメージを図面に書き起こす「基本設計」の作成を行いました。



病院長 光田 信明

【完成予想図と設計コンセプト】



1. 母とこどもにやさしい配置計画

- ・敷地西側斜面に新建物を配置
- ・安心・安全な動線計画
- ・敷地高低差を活用した動線

2. 明快な部門ゾーニングと動線計画

- ・明快な部門構成・ゾーニング
- ・患者と職員動線を明確に分離

3. こどもを守る医療の岩として

- ・時間外・感染動線の確保
- ・感染症流行を想定した計画
- ・院内感染を防ぐ安全な環境

4. 難易度の高い現地建替えに対応した建物ローリング計画

- ・現病院を運営しながらの建替工事
- ・工事車両と一般車両の動線分離など患者等の安全性を最優先した計画



1階エントランスホールのイメージ



5階母性病棟デイルームのイメージ

今後は、設計・施工の事業者選定に向けた取り組みを行うなど、2029年度中の開院を目指しています。より良い病院づくりを目指した新センター整備に向け、職員一同、邁進してまいりますので、引き続き、ご支援よろしく願いいたします。

基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域と連携して、母子保健を充実させます。
- 母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます。

MR装置が2台体制になりました

今年の8月中旬から新たに導入された3 T(テスラ)MR装置(図1)が稼働を開始し、従来の1.5 T装置と2台体制になりました。

メリットとしては1.5 T装置の約2倍のSNR(信号雑音比)の画像を撮影することができ、従来の1.5 T装置よりも、さらに高画質・高精細な画像の撮影が可能で、特に脳神経領域では鮮明な画像が得られます。また、今回導入された装置は最新のAI技術が搭載されておりより高分解能・高SNRな画像の提供が可能となりました。

当センターのMR検査の約6割を脳神経領域が占めており、3 T装置は非常に有用です。



図1.新しいMRI装置

デメリットとしてはMR画像を構成する重要なパラメータである緩和時間が延長するので、良好なコントラストを得るためには撮像時間を長くする必要があり、そのため、動きのある部位の撮像にはやや不利になります。

ただし、近年の技術革新によりデメリットの問題もほぼ解決されてきており、装置メーカーと協力体制を整え、よりいっそうの改善を図ってまいります。

今後は、1.5 Tと3 T、それぞれの装置のメリットを最大限に生かし、診療機能の向上と待ち時間の短縮による患者さんの満足度向上に努めたいと考えてます。

(放射線部門 技師長 藤原 高弘)

救急・総合診療科 新設のお知らせ

当センターは2018年に小児救命救急センターの指定を受け、最重症の子どもたちの治療に取り組んできました。

また2022年からは泉州地域の小児救急輪番制に参加し、広域センターからの入院依頼や救急車208台を含め、年間550名の救急患者さんを受け入れてきました。

このような経緯から、軽症から重症まで重症度にかかわらず、また複数の疾患をお持ちのお子さんや幅広い疾患に対応するため、2024年4月に「救急・総合診療科」が新設されました。



「救急・総合診療科」では、肺炎や胃腸炎などの感染症、けいれんやアレルギーなど、疾患や重症度を限定せず対応するとともに、病名が

明確でない場合でも一旦診察をさせていただき、必要に応じて各専門診療科へつなぐ「窓口」の役割も担っています。

地域からのご紹介については常時対応していますので、軽症から重症まで重症度にかかわらず、あるいは診療科が不明な場合でもご連絡頂ければ幸いです。

今後は診療体制を充実させ、各専門診療科とともに子どもたちの笑顔を増やすことができると考えていますのでよろしく願いいたします。

(救急・総合診療科 旗智 武志、五嶋 嶺、石川 達也)



緩和ケアチーム(Palliative Care Team)が活動しています



2013年小児がんセンター発足以降、小児がんセンター緩和ケア多職種チーム(通称QST(QOL Support Team))で治療を受ける小児がんの子どもとご家族の苦痛を和らげるアプローチを進めてきました。

今年度から、より積極的に苦痛緩和にアプローチするべく、身体精神治療の診療部門として **緩和ケアチーム** が活動を始めました。

小児がんに代表される高度医療を受ける子どもとご家族は、治療にまつわる様々な「苦痛」を感じています。

治療にまつわる様々な「苦痛」

- 身体的苦痛…“注射の痛み”“手術後の痛み”など
- 精神的苦痛…不安で眠れない など
- 社会的苦痛…学業の遅れ、仕事や金銭的な悩み など
- スピリチュアルペイン…生きる意味を見出せなくなる など

医療行為に伴うこれらの「苦痛」を予防し軽減することが、治療を進める上でとても大切となります。身体症状緩和を担当する医師、精神症状緩和を担当する医師、緩和ケアに精通した看護師と薬剤師を中心に、すべての子どもとご家族の様々な苦痛を予防し緩和する診療を目指しています。

治療を担当する医療者とともに、緩和ケアチームと緩和ケア多職種チームが連携して、子どもとご家族の苦痛を和らげ取り除くべく活動を進めていきます。

(緩和ケアチーム代表、子どものこころの診療科 平山 哲)

医療的ケア児支援センター 活動報告 3



2023年4月末に開設された、大阪府医療的ケア児支援センターも2年目に入りました。

窓口相談 は4月-6月に238名の方からいただきました。中でも学校に関しては様々な課題があり調整中です。

いただいた相談に対して行った調整の全回数は3カ月で868回でした。

これは昨年度の2267回/年を大きく上回るペースです。

地域と連携しながら支援体制の構築にも努めてまいります。



また、今年度も大阪府を北部・中部・南部の3つの地域に分けて **圏域会議** を行いました。

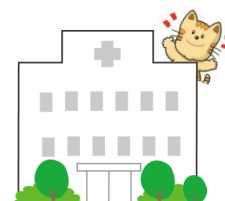
今年のテーマは「災害対策」で、行政や医療機関の方を中心に計172名にご参加いただき、市町村ごとの実情や課題を共有しました。こちらでも重要なテーマですので、引き続き取り組んでまいります。

(大阪府医療的ケア児支援センター長 望月 成隆)

在宅医療において積極的役割を担う医療機関に認定されました

このたび当センターは、第8次大阪府医療計画における **在宅医療において積極的役割を担う医療機関** (以下、積極的医療機関)に位置付けられました。

積極的医療機関には、自ら24時間体制の在宅医療を提供するとともに、他の医療機関や医療・介護等の現場での多職種間連携の支援を行うことが求められています。



当センターではこれまでも、他の医療機関さまへの紹介や関係諸機関との連携、セミナー・研修会の開催などを行っておりますが、地域の皆さまに安心いただける医療の提供に向け、今後も尽力してまいります。



造血幹細胞移植看護研修 (Web研修、看護師向け) を開催しました (2024. 7. 21)

毎年、夏に開催しています。医師、看護師の講義の他に、今年は管理栄養士と移植コーディネーターの講義をトピックスとして行いました。

管理栄養士の講義

「食育」を念頭に置いた支援や、わたあめ屋さんなどのイベントを通して「食べる」ことへの支援について知ることができました。

移植コーディネーターの講義

子どもであるきょうだいドナーへのかかわりについて考えることができました。



東北、関東、中部、北陸と近畿地方以外からも多く参加いただき、50人以上の受講がありました。

ガチャガチャを設置しています

NPO法人プロジェクトサンタ様より、病気と闘う子どもたちと
そのご家族に何かしらお役に立ちたい! という想いの
もと、子どもたちが大好きな「ガチャガチャ」を2台設置
いただきました。

1台は採血室、もう1台はイベントの時に病棟で使用
しています。特に採血室では、嫌な採血を頑張った子ども
たちの楽しみになっています。



“さいけつのおとごほうびうれしいです”と子ども
から直接メッセージが入り、ガチャガチャの存在が
子どもたちの力になっています。

お知らせ

診療のご案内2024年度版を
ホームページに掲載しました

こちらから
ご覧いただけます



セラピードッグがNICUを訪問しました!



セラピードッグは小児棟だけではなく、NICUも
訪問しています。

NICUは30kgを超える大型犬の **けんたくん**
が担当です。

大きなもふもふBodyは窓越しでも赤ちゃん、
お母さんにわかります。

ひょっこり、窓からけんたくんの姿が見えると
みんな笑顔になります。



診療時間: 平日 9時~17時30分
予約受付時間: 平日 9時~19時

地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪母子医療センター 患者支援センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町840

【初診専用】 TEL: 0725-56-9890 (直通)

FAX: 0725-56-5605

【その他】 TEL: 0725-55-3113 (直通)

FAX: 0725-56-7785

【医師相談窓口】 E-mail: chiren@wch.opho.jp



医療対象者
ホットライン

(※24時間受付直通)

PICUホットライン
0725-56-1070

小児がん・白血病
ホットライン
0725-57-7677

心疾患ホットライン
0725-56-3833

この広報誌に関するご意見・ご要望はFAXにて患者支援センターにお寄せください。